

物には生まれる過程がある。その過程を物から読み取ることで、どこか“あたたかみ”を感じれる。

木造建築には“あたたかみ”を感じれる。それは作り手が何ヶ月・何年の工期をかけて作り上げるからだ。そこからは作り手の残したマーキングやキズや汗を見てとれる。

古代においてガラスは製法の難しさからとても貴重なものとされていた。そして高度な技術発展の結果大量生産が可能になり、どれも均等に均質で美しいガラスが作られるようになった。

まるで宇宙から運ばれてきたようだ。

だがガラスも人の手によって多くの過程を経て生まれるものである。

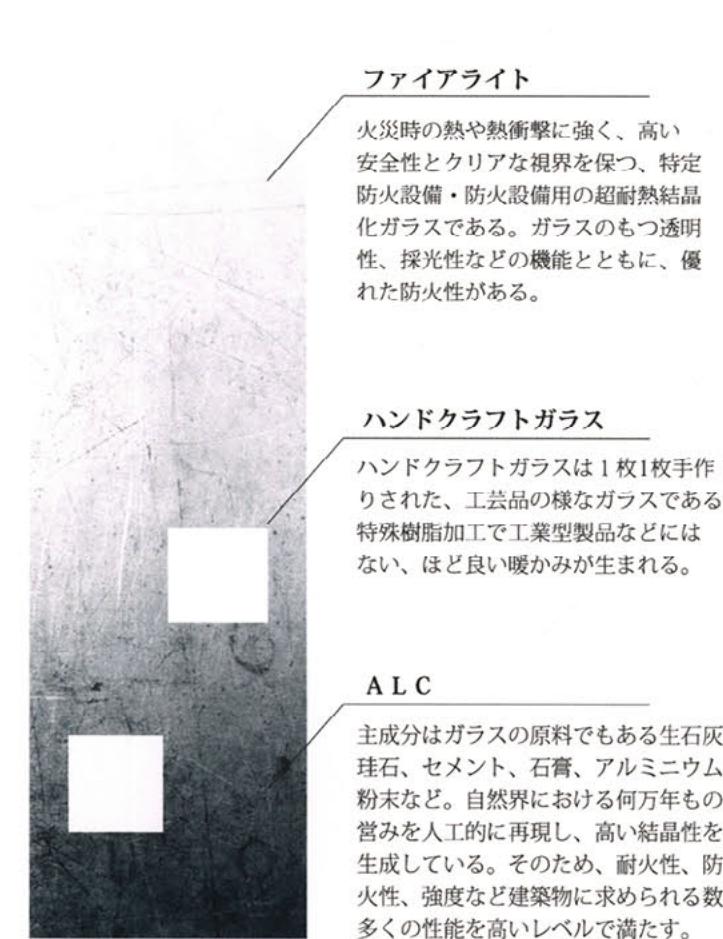
木材は大地の恵みを受けて育った森林から生まれる。ガラスは大地を覆う何種類もの岩石から生まれる。

本提案では、その岩石から碎かれ・熱せられガラスに変化していく過程をそのまま建材として使用する。

ガラスが生まれる過程を見て触ることで、どこか人間らしい“あたたかみ”を感じれるだろう。それは新たなガラスの美学と言える。



□ Diagram



□ Section

